

令和２年度千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会 第１回農政部会 議事録

１ 日時：令和２年６月２５日（木） 午前１０時～午後１時

２ 場所：千葉中央コミュニティセンター ９３会議室

３ 出席者：

（１）委員

大原明保委員（部会長）、河合謹爾委員（副部会長）、善積康夫委員、
西田直海委員、白熊一郎委員

（２）事務局

表谷農政部長、石出農政課長、中坂農政課長補佐、柴田主査、塩田主任主事、
豊田主任技師
高須農政センター所長、中田農業経営支援課長補佐、山田主任主事

４ 議題：

- （１）中田やつ耕園（千葉市中田都市農業交流センター）における指定管理者年度評価に関する事項について
- （２）富田さとにわ耕園（千葉市富田都市農業交流センター）における指定管理者年度評価に関する事項について
- （３）下田農業ふれあい館（千葉市下田都市農業交流センター）における指定管理者年度評価に関する事項について
- （４）千葉市ふるさと農園における指定管理者年度評価に関する事項について

５ 議事の概要：

- （１）中田やつ耕園（千葉市中田都市農業交流センター）における令和元年度の年度評価について審議を行い、部会の意見を議決した。
- （２）富田さとにわ耕園（千葉市富田都市農業交流センター）における令和元年度の年度評価について審議を行い、部会の意見を議決した。
- （３）下田農業ふれあい館（千葉市下田都市農業交流センター）における令和元年度の年度評価について審議を行い、部会の意見を議決した。
- （４）千葉市ふるさと農園における令和元年度の年度評価について審議を行い、部会の意見を議決した。

６ 会議経過：

【農政課長補佐】 おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

ただいまより、令和２年度千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会第１回農政部

会を開催いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます、農政課長補佐の中坂です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。配布資料は、次第、席次表、委員名簿、資料1 中田やつ耕園（千葉市中田都市農業交流センター）評価資料、資料2 富田さとにわ耕園（千葉市富田都市農業交流センター）評価資料、資料3 下田農業ふれあい館（千葉市下田都市農業交流センター）評価資料、資料4 千葉市ふるさと農園評価資料、そのほか参考資料として1、2、3でございます。不足等がございましたら、お知らせ願います。よろしいでしょうか。

続きまして、会議の成立についてご報告いたします。本日の出席委員は、総数5名中5名でございますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第10条第2項により、会議は成立しております。

次に、会議の公開及び議事録の作成についてですが、お手元の参考資料2「千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」をご覧ください。これは平成22年7月27日の委員会における決定事項でございますが、一番下段の「3 部会の会議への準用」にありますとおり、部会にも準用されることとなっております。したがって、「1 会議の公開の取扱い」の（1）のとおり、本日の会議は公開となります。

なお、現在までに1名の傍聴の申込みがありましたので、ご報告いたします。

また、議事録につきましては、「2 議事録の確定」の（1）のとおり、事務局案に対する部会長の承認により確定することとなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、農政部長の表谷よりご挨拶申し上げます。

【農政部長】 おはようございます。この4月より、農林水産省から出向させていただいております、経済農政局農政部長の表谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、雨で足元が悪い中、また、新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残る中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今日は換気等の対策をしっかり行ってまいりますので、ご理解いただければと思います。よろしくお願いします。

指定管理者制度という部分については、国の方ではなかなかなじみがなくて、初めて今回、関わらせていただくこととなりますので、ご指導、ご鞭撻いただければと思います。よろしくお願いいたします。

本日、ご評価いただく農政関係の4施設に関しましては、昨年度の選定評価委員会後、様々な取組みをさせていただいておりますけれども、秋には台風15号、19号、また、10月25日の大雨等の影響があったりですとか、年度末には新型コロナウイルス感染症の影響ということもあって、集客がなかなか想定どおり見込めなかったり、3密への対策というものを求められたりしてございまして、大変苦しい1年になったと思っております。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により内食が進むこともございまして、直売所等の売上げが少し伸びている部分もございまして、そういうところをしっかりと取組

みとして進めていくべきなのかなと思っております。

本日は、委員の皆様のご専門的なご知見を頂きながら、忌憚のないご意見をいただきまして、今後の管理運営に反映させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。

【農政課長補佐】 ありがとうございます。次に、委員の皆様をご紹介させていただきます。

お手元の委員名簿をご覧ください。名簿順に、農政部会の委員の皆様をご紹介させていただきます。まず、常任委員からご紹介します。部会長の大原明保様でございます。副会長の河合謹爾様でございます。善積康夫様でございます。次に、当部会の臨時委員をご紹介します。白熊一郎様でございます。西田直海様でございます。以上、5名の皆様でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。これからの議事は、大原部会長に進行をお願いいたします。

【部会長】 まず、本日の議事の流れについて事務局より説明をお願いします。

【農政課長補佐】 では、本日の議事の流れについて説明させていただきます。

本日は、議題にございますとおり、中田やつ耕園（千葉市中田都市農業交流センター）、富田さとにわ耕園（千葉市富田都市農業交流センター）、下田農業ふれあい館（千葉市下田都市農業交流センター）、千葉市ふるさと農園の4つの指定管理施設について、年度評価を行っていただきます。

中田、富田の説明、意見交換の後、取りまとめのお時間をいただきます。その後、下田、ふるさとの2つの施設についての説明、意見交換の後、取りまとめのお時間をいただきます。

先に市より評価資料の説明をさせていただいた上で、意見案を委員の皆様で議論いただきます。意見案を取りまとめている間は、委員の皆様は休憩となります。そして、事務局にて取りまとめを行った意見案をご協議いただき、最終的な部会の意見として決定していただきます。

評価の変更に関するご意見を頂いた際は、委員の皆様で変更に関してご審議をいただきます。年度評価については、委員会として市に答申していただくと共に、ホームページ等で公表されます。

【農政課】 先に中田やつ耕園と富田さとにわ耕園の2つについて意見交換を行い、休憩をはさみまして、2つの施設の部会の意見を決定いただきます。次に、下田農業ふれあい館と千葉市ふるさと農園についても同様に進めます。このように、2つずつに切り分けて議題を進めさせていただければと思いますので、どうぞご協力をお願いします。

【部会長】 それでは、「議題（1）中田やつ耕園（千葉市中田都市農業交流センター）の年度評価に関する事項について」に入ります。事務局より簡略にご説明願います。

【農政課長】 農政課長の石出と申します。座ってご説明させていただきます。

それでは、中田やつ耕園についてご説明いたします。

まず、令和元年度指定管理者年度評価シートをお願いします。

まず、「1 公の施設の基本情報」ですが、愛称は中田やつ耕園で、正式名称は千葉市

中田都市農業交流センターです。条例上の設置目的は、都市部と農村部の交流を図るとともに、農業を振興することにより、地域の活性化に寄与することを目的としています。ビジョン、ミッション、制度導入により見込まれる効果については平成26年度の選定であるため設定はございません。次に、成果指標は利用者数と市民農園契約区画数であり、数値目標は利用者数が年間1万5,000人、契約区画数は318区画です。

「2 指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は「中田市民農園管理運営組合」です。指定期間は平成27年4月1日から令和2年3月31日までの5年間です。選定方法は非公募です。非公募の理由は記載のとおりです。次に管理運営費の財源は、指定管理料及び市民農園の利用料金収入です。

「3 管理運営の成果・実績」でございますが、令和元年度の利用者数は1万3,152人で、達成率は87.7%。市民農園の契約区画数は269区画で、達成率84.6%でございます。

次に、2ページをお願いいたします。

「4 収支状況」は、令和元年度の実績額のみご説明いたします。「(1) 必須業務収支状況」ですが、「ア 収入」は指定管理料1,404万8千円、利用料金収入410万6千円、その他収入2万3千円、合計としまして1,817万7千円でございます。「イ 支出」ですが、人件費が666万8千円、事務費272万4千円、管理費864万3千円、合計としまして1,803万5千円でございます。

実績額と計画額の差異の要因についてですが、人件費の増は勤務体制を見直ししたため、事務費の減はコピー機等リース代の削減や光熱水費の削減、管理費につきましては、植栽、園内維持管理費が増となったことによるものでございます。

続いて、3ページをお願いいたします。「(2) 自主事業の収支状況」ですが、「ア 収入」は、自主事業収入138万1千円、その他収入0円で合計138万1千円でございます。「イ 支出」は人件費が22万円、事務費が16万7千円、事業費59万7千円で、合計として98万4千円でございます。平成30年度に比べ自主事業の収入が減となっておりますが、その理由としまして、野菜の生育が台風、大雨の影響で芳しくなく、収穫体験用に提供できる野菜の数に限りがあったため、定員を減らしたり、工夫をしまして行ったことが要因と考えられます。

「(3) 収支状況」ですが、必須業務と自主事業を合わせた総収入は1,955万8千円。総支出は1,901万9千円。収支として53万9千円の黒字となっております。

「5 管理運営状況の評価」の(1)から(3)でございますが、これにつきましては後ほどご説明いたします。

続いて4ページをお願いします。

最下段の「(4) 経済農政局指定管理者選定評価委員会での意見を踏まえた対応」でございますが、「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。今後とも施設のPRを行い、施設利用者の継続や新規利用者の獲得を意識し、市民農園契約区画数の増に努められたい。」との意見をいただいておりますので、ホームページや市政だよりへの掲載、チラシの配布などにより施設のPRを実施したほか、自主事業のイベントにおいて利用につなげるPRを実施しました。

続いて、5 ページをお願いいたします。

「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」につきましては記載のとおりでありまして、アンケート調査では319件の回答をいただき、利用者より概ね好評を頂いている状況でございます。

次に、先ほど飛ばしました3 ページから4 ページの「5 管理運営状況の評価」の(1)から(3)について、ご説明いたします。

初めに、「5 (1) 管理運営による成果・実績」ですが、利用者数については、1万5,000人の目標に対し、1万3,152人の利用があり、達成率87.7%でしたので、市の評価をCとしました。市民農園の契約区画数につきましては、318区画の目標に対して269区画で達成率84.6%でしたので、市の評価をDとしました。

次に、「5 (2) 市の施設管理経費の縮減への寄与」につきましては、指定管理料は提案額から約7%減少しているものの、年度ごとに社会経済情勢などを鑑み減額したものでありまして、指定管理者の努力によって削減されたとは言えないということから、評価内容には当てはめず、評価をCとしました。

「5 (3) 管理運営の履行状況」ですが、年に2回程度モニタリングを行い、その結果を基に各評価項目において市の評価を行っております。こちらの細かい評価結果につきましては、対照一覧表に示してございますが、特記事項など特に説明事項がございませんので、説明は割愛させていただきます。管理運営の履行状況につきましては、7つの項目を全てCとして、概ね管理運営の基準、事業計画等に定める水準のとおり、管理運営が行われていたと評価しました。

6 ページをお願いいたします。

「7 総括」をご説明いたします。「(1) 指定管理者による自己評価」ですが、総合評価をCとした上で、所見としましては、「施設運営業務・施設維持管理業務については、事業計画どおり実施しました。自主事業については、市民農園利用者のニーズに沿った農業資材の提供と、栽培講習会を実施しました。また、秋の感謝祭にて、サツマイモの収穫体験を実施し、好評をいただきました。農園利用者と管理組合で実行委員会を作り、かかしの展示や野菜の品評会、野菜の直売を行いました。また、市民に向けて6月と11月に収穫体験を実施しました。今後も利用者の視点に基づき、整備等に努めていきます。」としています。

次に、「(2) 市による評価」でございますが、対照一覧表の8 ページ、最後のページをお願いします。右下の集計表に、先ほどご説明申し上げました、市の各項目の評価をまとめたものを記載しています。Cの評価が9つ、Dの評価が1つとなっておりまして、「市による総括評価の目安」においては、「市の評価項目のDが20%以下、かつ市の評価項目にEがない。」に該当し、評価はCとなります。

所見としましては、「施設運営業務・施設維持管理業務については、概ね事業計画どおり実施されている。自主事業については、農園利用者のニーズに沿い、農業資機材の提供、栽培講習会の実施のほか、利用者との協同でのイベント実施、市民対象の収穫体験などを実施し、参加者から好評だったことから、市民農園の活性化とPRに資する活動を行っている」と評価できる。利用者の高齢化や契約更新時期が新型コロナウイルス感

染症の流行と重なったことにより、契約区画数が昨年度より減少し、達成目標を下回っており、以前から指摘されている空き区画の活用とともに、新たな利用者獲得が課題である。市民農園は密にならないレクリエーション施設であることから、アフターコロナにおいて市民から注目されるよう、市民の農業への関心が高まっていることもあることから、積極的なPRを行っていくことが求められる。以上を踏まえ、概ね市が求める水準等に則した、管理運営が行われていると判断できるが、市民農園については契約区画数を増やすための施策（空き区画の活用や市民農園利用のPR）について、取組みを強化していただきたい。」と考えております。

最後に「(3) 経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見」について、事務局案を申し上げます。年度評価シートにお戻りください。6ページの最下段をご覧ください。「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。契約区画数が昨年度より減少し、達成目標を下回る結果となったため、市民の農業への関心が高まっていることを活かし、今後も施設利用者の継続や新規利用者の獲得のため、さらなる施設のPRを行い、契約区画数の増に努められたい。」としました。

以上で、中田やつ耕園の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

【部会長】 ただいまの説明対しまして、何か質問、ご意見がありましたら発言をお願いします。

なお、意見につきましては、後ほど部会の意見として取りまとめますことから、意見であることを明確にしてご発言ください。

なお、年度評価シートの「市の評価」及び「委員会の意見」はあらかじめ事務局としての案が記入されておりますが、委員会の意見を踏まえて修正することも可能となっておりますので、ご意見があれば理由を明確にし、ご発言ください。

それでは、何かご質問、ご意見等ございますでしょうか。

【委員】 委員会の意見の案のところの、「さらなる施設のPRを行い」とありますけれども、具体的にはどういうPRを想定されていますか。

【農政課】 まず、市民農園の利用についてのご案内を市政だよりで例年、2月と5月に行っておりますが、それ以外にも8月の若葉区の区版の市政だよりでPRさせていただくとともに、今、考えておりますのが、市で連携協定を結んでいる企業に向けて、その従業員に向けて利用の促進をするチラシやポスターをバックヤードなどに貼らせていただくことを検討して、企画を進めております。

以上です。

【委員】 ありがとうございます。

【委員】 自主事業収入のところですが、年度評価シートの3ページを見ますと、令和元年度は平成30年度に比べて少なくなっています。また、事業報告書の10ページにある当年度予算では250万円の収入が予定されていましたが、それに比べるとかなり少ないです。先ほど天候による野菜の生育に問題があったということでしたが、かなりの減なので、その要因が資料に書かれているとよいのかなと思いました。資料を見ると、自主事業については好評だったとか、そういう表現はありますが、減少要因についての説明部分が見当たらなかったもので、それについての記載はあった方がよかったと思

います。

【部会長】 私の方から1つお尋ねしますが、年度評価シートの最後の当委員会の意見で、2項目めに関して、「市民の農業への関心が高まっていることを活かし」となっていて、この機運をうまく使おうじゃないかということらしいんですけども、市民の農業への関心が高まっているというのは、何を根拠にそんなことが言えるんですか。市の総括評価の中にも「市民の農業への関心が高まっていることもあることから」という表現がありますけれども、この根拠は何ですか。

【農政課長】 まず、一般的な根拠情報としまして、日本経済新聞なり農業新聞等の中に、コロナ禍の中の密にならないレクリエーションとして非常に注目が集まっているという記事を1つの根拠にしています。それから、令和元年度につきましては、市民農園の契約区画数が減っているわけですが、その後、新規の問合せも徐々にあるという状況です。

【部会長】 つまり、マスコミに一部そういう報道があったということが根拠ということですか。

【農政課長】 はい。

【部会長】 その記事を出してください。それがそういうふうに評価できるのかどうか。

【農政課長】 記事はこちらです。（令和2年6月13日付け日本農業新聞14面の記事を示す）。

【部会長】 この記事を見て感じるのは、農業への関心じゃなくて、これは家庭菜園に関心が、ということなんでしょう。市民が農業に今まで関心がなかったものが、農業そのものについての関心がある、というのは、表現が違うんじゃないかと思います。家庭菜園、あるいは、市民農園というか、そういうものに関心があるということがうかがわれるような報道が一部にあった。それを根拠にするというのであれば、家庭菜園などでしょう。日本の農業に市民の関心が高まったなんていうことはあり得ないと思います。

【農政課長】 分かりました。そのご意見のように、修正させていただきます。

【部会長】 ほかにどなたか質問、発言、ございますか。

次に、議題（2）に進みたいと思います。「議題（2）富田さとにわ耕園（富田都市農業交流センター）の年度評価に関する事項について」に入ります。事務局より説明をお願いします。

【農政課長】 富田さとにわ耕園についてご説明いたします。

資料2となります。令和元年度 指定管理者年度評価シートをお願いいたします。

「1 公の施設の基本情報」ですが、愛称は富田さとにわ耕園で、正式名称は千葉市富田都市農業交流センターです。条例上の設置目的は、都市部と農村部の交流を図るとともに、農業を振興することにより、地域の活性化に寄与することを目的としております。ビジョン、ミッション、制度導入により見込まれる効果については記載のとおりでございます。成果指標は、来場者数と研修室稼働率で、数値目標は、来場者数が年間11万人、研修室稼働率は20％です。

続いて、「2 指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は「富田町管理運営組合」。

指定期間は平成29年4月1日から令和4年3月31日までの5年間です。選定方法は非公募です。非公募の理由は記載のとおりでございます。管理運営費の財源は、指定管理料及び研修室の利用料金収入となっております。

続いて、「3 管理運営の成果・実績」ですが、令和元年度の来場者数は14万2,544人で、達成率129.6%。研修室稼働率は18.2%で、達成率91.1%です。

続いて、2ページをお願いいたします。

「4 収支状況」は、令和元年度の実績額のみご説明します。「(1) 必須業務の収支状況」ですが、「ア 収入」は指定管理料3,199万6千円、利用料金収入28万1千円、その他収入4万7千円、合計3,232万4千円でございます。「イ 支出」ですが、人件費が683万円、事務費が398万1千円、管理費が2,065万6千円、合計3,146万7千円です。実績額と計画額の差異の要因についてですが、人件費につきましては、天候等により現場作業が減少したことによる減、管理費につきましては、園内維持管理費、修繕費が増加となったことによるものでございます。

続いて、3ページをお願いいたします。

「(2) 自主事業の収支状況」ですが、「ア 収入」は自主事業収入561万7千円。「イ 支出」は人件費が35万円、事務費が53万5千円、委託費が299万2千円で合計387万7千円でございます。

「(3) 収支状況」ですが、必須業務と自主実施事業を合わせた総収入は3,232万4千円。総支出は3,146万7千円で、収支は85万7千円の黒字となっています。

「5 管理運営状況の評価」の(1)から(3)ですが、これにつきましては後ほどご説明いたします。

続いて、5ページをお願いいたします。上段、「(4) 経済農政局指定管理者選定評価委員会での意見を踏まえた対応」ですが、「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。今後とも施設のPRを行い、来場者を増やすのみならず、特に研修室については利用方法の提案等を周知し、稼働率向上に努められたい。」とのご意見をいただいておりますので、ホームページやチラシの配布などにより施設のPRを継続的に行うとともに、Facebookを活用し、来場者数の増加を図りました。

続いて、下段になりますが、「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」につきましては、記載のとおりでありまして、アンケート調査で90件の回答をいただき、富田さとにわ耕園へ訪れる目的の大半が季節の花を見に、あるいは、自然との触れ合いという回答結果となっております。利用者アンケート結果からも施設の目的が果たされていると言えます。

次に、先ほど飛ばしました3ページから4ページの「5 管理運営状況の評価」の(1)から(3)の説明でございます。

初めに、「5 (1) 管理運営による成果・実績」ですが、来場者数につきましては、11万人の目標に対し、14万2,544人の利用があり、達成率129.6%でしたので、市の評価をAとしました。研修室稼働率については、20%の目標に対し18.2%で、達成率91.1%でしたので、市の評価をCとしました。

次に、「5 (2) 市の施設管理経費縮減への寄与」については、提案時と実績の差が3.

4 %であり、「提案時と同額または5 %未満の削減」となったため評価をCとしました。

次に、「5 (3) 管理運営の履行状況」ですが、年に2回程度のモニタリングを行い、その結果を基に各評価項目において、市の評価を行っております。こちらの細かい評価につきましては、対照一覧表で示してございますが、まず、先に各評価項目の市の評価について申し上げます。7つの項目を全てCとし、概ね管理運営の基準、事業計画等に定める水準どおりに管理運営が行われていたと評価いたしました。

「2 施設管理能力」「(2) 施設の維持管理業務」という項目がありますが、それにつきまして、評価はCといたしましたが、モニタリングにおいて◎の評価をいたしましたので、ご説明させていただきます。対照一覧表、3ページをお願いいたします。最下段になりますが、「イ 清掃・植栽管理」という項目がございます。モニタリング結果は◎と評価し、その理由として、提案書にあるシバザクラ、桜、ツツジ、紫陽花、コスモス、ヤマユリ以外にも、ネモフィラ、ポピー、ピンポン mum など1年を通じ、園内に花が楽しめる植栽管理を実施したことを評価しました。

年度評価シートにお戻りください。6ページをお願いいたします。「7 総括」をご説明いたします。

「(1) 指定管理者による自己評価」ですが、総括評価をCとした上で、所見として、「本館、駐車場ならびに四阿（あずまや）の清掃業務は週2回のローテーションどおりほぼ順調に実施した。また、シバザクラ、コスモス見物等来場者の多い時期は、衛生面に配慮し、清掃実施の時間帯を来場者のピーク後に行った。植栽等園内管理作業は概ね順調に業務が遂行できたと思われる。自主事業については、農業体験農園の他、ジャガイモ・落花生・枝豆・サツマイモオーナー制度等全体的に「かなり満足な状況」とと思われる。地元農産物の販売等も、場所や要員を工夫しながら、主に春・秋を中心に実施し、来場者サービス・交流面等で寄与したと思われる。本年度は、台風・大雨による被害が生じ、利用者に不便を掛けた場面もあった。」としています。

次に、「(2) 市による評価」ですが、対照一覧表の8ページをご覧ください。8ページの右下の集計表に先ほどご説明申し上げました市の各項目の評価をまとめたものが記載してあります。評価Aが1つ、Cが9つ。「市による総括評価の目安」においては、「市の評価項目のDが20 %以下かつ市の評価項目にEがない。」に該当し、評価Cとしました。

所見としまして、「施設運営業務、施設維持管理業務については、概ね事業計画どおり実施されていた。植栽維持管理業務については、当初提案のシバザクラや季節の花々の整備とともに、ネモフィラ、ポピー、ピンポン mum などの花の整備、管理も積極的に行い、年間を通じて花を楽しむ場所として運営していると評価できる。来場者数は、目標数値を3割増で達成しており、年間を通じた花の管理やイベント・自主事業の実施など施設の魅力を向上させる管理者の努力によるものと評価できる。今後も、地域や学生との連携による創意工夫のある取組みを実施し、リピーターおよび新たな来園者を呼び込めるよう期待する。以上を踏まえ、概ね市が求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていると判断できるが、研修室については稼働率が低いことから、研修室の存在をPRするなど、稼働率向上に努められたい。」としました。

最後に、「（３）経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見」について、事務局案を申し上げます。年度評価シートにお戻りください。６ページの最下段です。「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。今後とも施設の管理運営を通じて、魅力を向上させ来場者を増やすのみならず、新たな活用法も含め研修室稼働率向上に努められたい。」としました。

富田さとにお耕園の年度評価シートの説明は以上となります。よろしくお願いします。

【部会長】 今の説明についてのご質問ございましたら、お願いいたします。

先ほどと同様、意見、質問等、まとめる上で、明確に区別してご発言をお願いします。

【委員】 稼働率の来場者数のカウントというのは、細かいことで申し訳ないですけど、どういう方法でカウントされているのかというのをお聞きしたいんですが。

【農政課長】 駐車場から園内に入るところに機械式のセンサーを設置しております、そこでのカウントを基本としています。

【委員】 花を見に来た人はそこでピッと数えられるということですか。

【農政課長】 はい。

【委員】 それプラス、収穫体験の人達もカウントされているということですか。

【農政課長】 少し加味させていただいています。

【委員】 私は昨日行ってきたんです。別に門があるわけじゃなくて、ずっと入れるので、人数に入っているのかと思っていたんです。

今は紫陽花がすごくきれいで、大賀ハスも咲いていて、あと、１つぐらい、ペチュニアぐらいかな、咲いていたのは。ペチュニアの畑が少し見えるぐらいで、あとは緑になっているんですけど、鬱々とした状況下で、あそこに行くと本当にすっとする気分になるというか。他のお客さんは５組か６組ぐらいしか来ていなかったと思います。昨日は平日だし。だけど、来て散歩したら心が晴れるということをもっとＰＲできたら、と私も思いました。だけど、人が少ないので少し油断しているかなとも思ったんです。それは、散歩道のところの草を刈っているけれども、その草が倒れたまま、散歩道に出てしまったりとか、そのままになっていたり。大賀ハスも今、咲いているけれども、大賀ハスの案内も、簡素なものなので、そういうところももう少し工夫して、いつ来てもすがすがしいという状況を作っていただければ、もっとお客さんが来るかと思いました。

【部会長】 私のほうから１つ、市の総括評価の所見のところ、３項目めです。「今後も地域や学生との連携による創意工夫のある取組みを実施し」となっていますが、それは具体的にどういうことなんですか。

【農政課】 まず、地域についてですが、周辺の農業者や自治会と連携して、毎年秋にコスモス祭りを開催しております、今年度も開催の方向でありますので、そういったことで地域と連携をしてやっていくことがまず１つと、２つ目、学生ですが、こちらは千葉大学の学生さんと平成２７年度から、いずみ地区の魅力向上ということで取組みを行っております、昨年度は富田のハロウィンということで、カボチャを作って、イベントでカボチャのワークショップを学生さんに来てもらってやっていただきました。今年度も同様の取組みを考えておりますので、そういったことで学生との連携と記させていただきます。

以上です。

【部会長】 関連して、モニタリングレポートの最後の7ページ目、特筆すべき事項の3項目めにも、「千葉大学の学生との連携を進め」と出ていますけれども、これは連携の仕方というのは、大学は何か関連しているんですか。それとも、単なる千葉大学に在籍している人がやったということだけなんですか。

【農政課】 千葉大学の教授の研究室と連携しております。教授を中心として、そこに在籍するゼミの学生の方々とやっております。

【部会長】 それは目標というか、目指すところは何なんですか。

【農政課】 目標としては、富田、下田、中田のいずみ地区の活性化ということで、学生のアイデアを生かしてPRをすることを目標にして、富田の知名度を上げたり、そこを活性化するというので活動を行っていただいております。「富田さとにわ耕園」という名称やロゴを学生さんに作っていただいたことや、例えば、幕を作ったりだとかイベントをやったりということで取組みをしております。

【部会長】 さとにわ耕園というのは、学生からのアイデアだったということなんですか。

【農政課】 そうです。千葉市から委託という形で、学生の方々にワークショップをしていただいて、名称を決めて、ロゴのデザインもしていただいた経緯がございます。

【部会長】 それがきっかけで、その延長線上で、という捉え方でいいんですか。

【農政課】 その前から取組みは続いていたんですが、そこでロゴを決めていただいて、そこに学生さんたち、研究室も愛着を持っていたので、今年度まで活動が継続しているということです。

【部会長】 今後、連携はどういう形で進んでいく見込みというか、狙いなんですか。

【農政課】 引き続き、イベントの参加と、あとは毎年、毎年課題が出てきますので、それに対して、主にPRの部分、周知の部分で学生さんの力を借りてやっていくというところです。

【部会長】 施設のネーミング、愛称はどういったいきさつで決まったんですか。

【農政課長補佐】 平成27年度、実際に発表したのはその後なんですけれども、いわゆるいずみ地区において、我々はグリーンビレッジ推進事業という形で、中田、下田、富田を抱えておりまして、それを都市農業交流センターだと、なかなか市民とのふれあいが感じられないということで、学生との連携の中で下田だけは「下田ふれあい農業館」でもともとあったんですけども、中田については「中田やつ耕園」、富田については「富田さとにわ耕園」ということで、学生が地元に着し、いろいろなヒアリングを行ったうえで、ロゴと愛称を決めさせてもらったところです。

最近の取組みとしましては、一昨年度になりますけれども、いずみのマップを大きく作りまして、3施設以外にも、古い道であったり、色々なものを紹介するマップを作っていただいて、それを紹介する形で区役所であったり、いろいろなところでPRしているところであります。

千葉大学のデザインを主とする研究室ですけれども、そちらとの連携の中で、千葉市のグリーンビレッジで、それ以上に我々、市としては、海と里山というところで広げて

いこうと、数年にわたって続いているところでございます。

【部会長】 大学の研究ということで、正式に何か取り交わしているんですか。それとも事実上、便宜を図って、研究の場を提供していると、機会を与えているということなんですか。協定か何か結んでやっているのですか。

【農政課】 市からの受託業務として、一部マップの制作、改訂だとか、あるいは、イベントでのPRだとかという項目として、委託業務としてやらせていただいている、研究室のほうでも研究課題ということで、地域の活性化という先生の意向もございまして、留学生も含めたゼミの学生と一緒に取り組んでいただいているというところでございます。

【部会長】 ほかに何かご発言ありますか。

【委員】 簡潔に2件ほど意見を申し上げます。来場者数が3割増えています。評価の表現というのは、確かに当事者にとっても、市にとっても難しいところがあると思うんですが、こういう実績だったからこういうふうの評価されるということではなくて、行動したり、工夫をした点をきちんと評価の内容のところに書かれたほうがいいと思います。実績としては、事業者側は細かいことを書かれています。それを読めば、市としての評価はそれを要約して書くということなんですが、単年度の評価では、分かりにくくなってしまう。ですから、結論としては、「市による評価」のところに、事業者が努力されてこうなったんだということの評価を明確に、書かれたほうがいいのではないかと思います。これだけ伸びているわけですから。きちんとできたところは評価するという原則をぜひお願いしたい。

それから、もう一点なんですが、研修室の利用が低いと言っていますが、目標は、もともと20%だったんです。それをもって達成率91.1%で、確かに全体から見ればもちろん低いです。低いけれども、単年度の中であえてそんなに低いと言う必要があるのかどうかということ。目標設定そのものがもともと低いので、それなりの原因があるとは思いますが、その点、あまり単年度の評価で低いと市の評価で言っていないのかどうか。もしご意見があれば、お願いします。

【農政課長】 指定管理者の努力した行動をきちんと評価したほうがいいということですね。対照一覧表にできるだけ、その評価をしようということで、◎としたところもでございます。ただし、全体のA、B、Cという評価に加算にはならないものですので、今回、特記事項としてご説明させていただきました。全体の「市による評価」のところにも、同様に反映していきたいと思っております。

それから、研修室についてですが、利用率は低いということにはなりますので、なかなか1年、2年では増えない状況にあるんですが、その努力はし続ける必要があるだろうということで、評価をしているところでございます。

以上です。

【委員】 研修室稼働率の確認ですけれども、稼働率の計算に関連して、事業報告書の3ページのところに、施設利用状況というデータがあります。その一番下の行に年間利用率という数字があつて、これが稼働率だと思いますが、この数字が表中のデータからは計算できないようです。年間利用率が唐突に出てきている感じがします。

【部会長】 質問の趣旨は、年間利用率というのは最後尾に出てきますけれども、分母と分子がどれなのかということですか。

【農政課長】 すいません。少しお時間をください。この会議の中で答えられるようにいたします。

【委員】 お願いします。

【副部会長】 前の中田の方の「市による評価」のところで、意見があるんですけども、よろしいですか。

先ほどは「委員会の意見」の方の話で、市民の農業への関心が高まっている云々について、下のほうで訂正されるということでしたので、ここも市民農園に対する関心が広まっているとかという表現に直るわけでしょう。そのときに、その後の積極的なPRを行っていくことという、下と同じような表現になっているわけですけど、先ほど具体的にPRはどんなということに対して市の方からご説明がありましたが、それは今期になって急に出来たわけじゃなくて、きっと前からやって出てきた内容で、面白いと思って聞かせていただいたんですけど、今後の展開のご予定を具体的に書かれれば、PRが具体的になるんじゃないかと思うんですが。私の意見です。

【農政課長】 こういう市民農園というのは、今回のコロナ禍の中の再評価もあります。その一方で、レクリエーション部分もある程度ありますので、例えば、法人に対しての福利厚生として、何かできないかと。まず、それが頭にありまして、先ほど少しお話ししましたが、具体的には市と連携協定を結んでいる法人さんのところに今、アタックしているところなんですけど、非常に細かなハードルもありますので、できることからということで、まずは皆さんの目に付くような貼り紙をするなど、今、考えております。法人向けの福利厚生的なものも少し視野に入れていきます。

【農政課長補佐】 「さらなる施設のPR」のところに、具体性を少し入れられればということでもよろしいですか。

【副部会長】 その通りです。

【農政課長補佐】 今のように法人への福利厚生というのが実現可能かどうかというのは、まだハードルがございますので、なかなか文言として謳いにくかったというところがございます。

【副部会長】 先ほどの千葉大学といずみ地区の活性化というコンセプトも、ここの中田だけの話じゃないですけど、そういうものも市民もすごく関心を持っていることだろうと思うので、それはどこに書いていいかよく分からないですけども、そういうPRも、何でもPRすればいいというようなものではないと思うんです。そのPRの仕方を、こういうことを今、努力しているということですよ。

【農政課長補佐】 そうすると、「委員会の意見」の、例えば、「今後も施設利用者の継続や新規利用者」のところに、「法人利用も含めた」という感じの文言を追加することでもよろしいですか。

【副部会長】 そうですね。

【農政課長補佐】 それでしたら入れられないこともないかと思います。

【副部会長】 今までもやってきているはずですから、そういう具体性が出てきたら、

市の評価としても面白いかと思います。

【部会長】 関連して、先ほど「市民の農業への関心」、「農業」が「市民農園」に変わるというのは分かるんですけども、関心が高まったのは、コロナ禍の中でという言葉が入らないと、全く意味がないと思いますので、コロナ禍の中で関心が高まったと、そこは私の意見としてお願いします。

【農政課長補佐】 はい、分かりました。

【部会長】 では、休憩にするとして、再開は何時にしましょうか。

【農政課長補佐】 今から5分間で、11時20分まで休憩としていただきたいと思います。

(休 憩)

【農政課長補佐】 先ほどいただいた意見を反映した形で、読み上げさせていただきます。

中田やつ耕園の「委員会の意見」の2項目め、「契約区画数が昨年度より減少し、達成目標を下回る結果となったため、コロナ禍の中で市民農園への関心が高まっていることを活かし、今後も施設利用者の継続や新規利用者の獲得のため、個人だけではなく法人もターゲットにしたさらなる施設のPRを行い、契約区画数の増に努められたい。」

いかがでございましょうか。

【部会長】 「委員会の意見」をそのようにということですか。

【副部会長】 市の評価に対しても、この委員会は提案をできるんですか。後で訂正はできるんですか。

【農政部長】 その調整はできると思います。

【部会長】 ということで、まとめていただきました。こういう意見の取りまとめについて、ご意見はありますか。

【委員】 「結果となったため」ではなくて、「結果となったが」でもいいんじゃないですか。

【農政課長補佐】 「下回る結果となったが」とします。

【部会長】 中田やつ耕園における指定管理者による施設の管理運営に関し、当部会における意見としては、ただいまのとおり、決定してよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【部会長】 それでは、その旨、決定いたします。

【農政課長補佐】 次は富田さとにわ耕園です。ご意見はいただきましたが、「委員会からの意見」については、修正なしとさせていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

【部会長】 それに対するご意見がございましたら、発言ください。

富田さとにわ耕園に関しましては、当委員会の意見は修正なしということで決定してよろしいでしょうか。ご異議がなければ、そのように決定させていただきます。

【農政課】 先ほど、富田さとにわ耕園の年間利用率の話がございました。事業報告書をご覧ください。3ページ目になります。例えば、第1研修室ですと、年間利用率は13.98%となっております。計算方法ですが、開館日数304日、これを1日8時

間計算としまして、約 2,400 時間のうち 340 時間が使われていますという計算で、約 14% という年間利用率を出させていただいています。

利用率の説明は以上でございます。

【部会長】 時間でやっているということね。

【農政課】 はい。

【部会長】 それはほかの施設もそうだということでもいいんですね。

【農政課】 第 2 研修室、第 3 研修室もそのような形で計算しています。

【部会長】 では、議事を進行します。「議題（3）下田農業ふれあい館についての年度評価に関する事項について」に入ります。事務局より、簡略にご説明願います。

【農政課長】 続きまして、下田農業ふれあい館のご説明をします。

令和元年度 指定管理者年度評価シートをお願いいたします。

「1 公の施設の基本情報」ですが、愛称は下田農業ふれあい館で、正式名称は千葉市下田都市農業交流センターです。条例上の設置目的は、都市部と農村部の交流を図るとともに、農業を振興することにより、地域の活性化に寄与することを目的としております。ビジョン、ミッション、制度導入により見込まれる効果は記載のとおりです。成果指標は利用者数で、数値目標は年間 8 万人です。

次に、「2 指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は「下田ふれあい交流施設管理運営組合」です。指定期間は平成 30 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までの 5 年間です。選定方法は非公募で、非公募の理由は記載のとおりです。次に、管理運営費の財源は指定管理料のみとなっております。

「3 管理運営の成果・実績」ですが、令和元年度の利用者数は 6 万 6,126 人で、達成率は 82.7% となっています。

2 ページをお願いします。

「4 収支状況」は、令和元年度の実績額のみご説明します。

「(1) 必須業務収支状況」、「ア 収入」は指定管理料 933 万 7 千円、その他収入 3 万 8 千円、合計 937 万 5 千円です。「イ 支出」は人件費が 522 万円、事務費が 179 万 1 千円、管理費 205 万 1 千円、合計 906 万 2 千円でございます。実績額と計画額の差異についてでございますが、人件費につきましては勤務体制の変更により削減され、事務費につきましては光熱水費・印刷製本費の節減、管理費につきましては施設修繕費が増加したことによるものでございます。

3 ページをお願いいたします。

「(2) 自主事業収支状況」です。「ア 収入」は、自主事業収入 8,619 万 5 千円、その他収入 36 万 4 千円、合計 8,655 万 9 千円。「イ 支出」ですが、人件費が 1,570 万 9 千円、事務費が 7,155 万 3 千円、合計 8,726 万 2 千円です。

「(3) 収支状況」ですが、必須業務と自主事業を合わせた総収入は 9,593 万 4 千円、総支出が 9,632 万 4 千円、収支は 39 万円の赤字となっています。

「5 管理運営状況の評価」の (1) から (3) ですが、これにつきましては後ほどご説明します。

4 ページをお願いします。最下段の「(4) 経済農政局指定管理者選定評価委員会意見

を踏まえた対応」ですが、「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。しかしながら、直売所については利用者ニーズの把握と対応が不十分であり、地域の特徴を生かしながら、収益向上に資する工夫に努められたい。」とのご意見を頂いておりましたので、アンケートの活用等により、利用者ニーズを把握し、商品の品ぞろえを拡充するなど対応するとともに、自主事業の充実や、近隣にあります東京情報大学との連携による新しい集客イベントの実施など、施設の魅力を向上させる取組みを実施し、収益向上に資する工夫に努めました。

「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」につきましては記載のとおりでして、アンケート調査250件の回答をいただき、利用者より概ね好評を頂いている状況です。

先ほど飛ばしました3ページから4ページの「5 管理運営状況の評価」(1)から(3)についてご説明します。

初めに、「5 (1) 管理運営による成果・実績」ですが、利用者数につきましては、8万人の目標に対し6万6,126人の利用があり、達成率82.6%でしたので、市の評価をDとしました。次に、「5 (2) 市の施設管理経費縮減への寄与」については、提案時と実績額が同額であり、評価をCとしました。「5 (3) 管理運営の履行状況」ですが、年に2回程度モニタリングを行い、その結果を基に各評価項目において市の評価をしています。こちらの細かい評価につきましては、対照一覧表に示しておりますが、まず先に、各評価項目の市の評価について申し上げます。

「(3) 管理運営の履行状況」は、7つの項目全てCとしまして、概ね管理運営の基準、事業計画等に定める水準どおりに管理運営が行われたと評価しました。「3 施設の効用の発揮」、「(3) 施設における事業の実施」について、評価はCですが、特記事項をご説明させていただきます。対照一覧表の6ページをお願いします。上から2段目、「①施設の事業の効果的な実施」の「イ 環境衛生管理」に関して、モニタリング結果は○、概ね基準どおりに管理運営が行われていると評価しておりますが、特記事項としまして、レストランや直売所における新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に早い段階から取組み、施設内も感染症予防対策を適切に行ったとしました。

また、その下、「②自主事業の効果的な実施」、「ア 農産物直売所」に関しても、モニタリングの結果は○でしたが、特記事項としまして、昨年度より直売所の利用者数及び収入が微減しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もある中、直近2、3月の売上げは前年を上回っており、厳しい環境の中でも対応しているとしました。次に、「イ 農家レストラン」についても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中で、BUFF形式から定食形式への変更や弁当製造などの対応をいち早く行ったと特記事項を記載しました。

年度評価シートにお戻りください。6ページです。

「7 総括」をご説明します。「(1) 指定管理者による自己評価」ですが、総括評価をCとした上で、所見としまして、「本施設はオープンし、12年目を迎え、地域にも浸透し、概ね計画どおり管理運営ができました。また、定期的な保守点検や修繕も実施し、日々市への管理業務日報を報告するほか、密に市との連絡・報告・意見交換に努めた。東京情報大学とは引き続き、産学共同活動の一環として、ニンジンプリンの販売やスマ

ホ悩み相談の実施、レストラン内の壁を利用した展示などを実施しました。引き続き、活動を進めてまいりたいと考えております。自主事業は、前年度より利用者・売上高ともに減少しました。本年度は、「お米作り体験」、「夏の収穫祭」や新たに企画した「秋の感謝デー」など自主イベントで積極的に集客に努めましたが、大雨、台風、新型コロナウイルスの感染防止によるイベントの中止等により、思うような集客増にはつながりませんでした。今後は新たな農産物の販路拡大事業の実施やネットによるPRの継続等を実施し、売上増に努めてまいります。事業計画書に従い、アンケートを実施し、その把握に努め、お客様の意見を反映させるよう努めます。」としています。

次に、「(2) 市による評価」ですが、対照一覧表の最後の8ページをお願いします。右下の集計表に先ほどご説明申し上げました市の各項目の評価をまとめたものが記載されております。評価はCが8つ、Dが1つとなり、「市による総括評価の目安」においては、「市の評価項目のDが20%以下かつ市の評価項目にEがない。」に該当し、評価をCとしました。

所見としまして、「施設維持管理業務については、概ね事業計画どおり実施されていた。自主事業については、農産物直売所レストランの運営に加え、直売所の店頭イベントの開催により都市部と農村部の交流が行われ、農業の振興及び地域の活性化を図る努力を行っている。また、店外のイベントにも積極的に出店しており、取組みについて評価できる。しかしながら、レストラン・直売所とも利用者人数・売上が前年度比減となり、実施事業は70万3千円の赤字となっていることから、収支の改善に向けて一層の対策を取っていただきたい。台風・大雨によるイベントの中止や出荷物の減少、新型コロナウイルス感染症に伴う外出自粛等の厳しい社会情勢においても、赤字の額を減少（去年より44万3千円の改善）し、感染症対策にもいち早く取組み、着実に事業実施をしていることは評価できるものである。

以上により、概ね市が求める水準等に則した良好な管理運営が行われていると判断できるが、今後は自主事業の収支の改善に向け、新たな生活様式の中で、地産地消への関心が高まっていることも好機と捉え、店頭の品ぞろえの充実や新たな販路拡大、スタッフ研修などにより、魅力ある直売所作りに努められたい。また、レストランは、魅力あるメニューを創作するなど付加価値を上げる工夫を検討し、収支の改善に努められたい。」と考えています。

最後に、「(3) 経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見」について、事務局案を申し上げます。年度評価シートにお戻りください。6ページ、最下段です。「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。台風・大雨災害、新型コロナウイルス感染症の影響により売上が低下するなど厳しい局面であったが、昨年度と比較し収支が改善した。引き続き、自主事業の収支を改善させるため、利用者のニーズを的確に捉えた魅力ある直売所作りや地産地消への関心が高まっていることを好機と捉え、現状にとらわれるのではなく、利用者のニーズを的確にとらえ魅力ある直売所づくりやレストランのあり方の検討を進めていただき、自主事業の赤字収支の解消、収益性の改善に資する工夫に努められたい。」としました。

下田農業ふれあい館の年度評価シートの説明は以上となります。よろしくお願いいたします

します。

【部会長】 今のご説明を受けて質問、あるいはご意見ございましたら、発言ください。

私からですけれども、指定管理者の下田ふれあい交流施設管理運営組合の財政基盤の弱さというのが気になります。損益計算書の営業利益金額というのが赤字でした。にもかかわらず純利益が出ているのは何かというと、雑収入、35万7,327円。この雑収入というのは何ですか。営業利益が落ちているにもかかわらず、雑収入が計上されたことで何とか純利益を出しているんですね。

【農政課】 雑収入の金額の主なものとしまして、消費税引上げに伴いまして、レジ内部のシステムを更新しておりまして、それに対して、国から補助金を受けています。それがおよそ27万円、それが大きなものだ聞いております。

以上でございます。

【委員】 いわゆる生産農業所得の考え方ですね。農業所得ではなくて、結局、補助金で増えたということですね。ただ、所得には変わらないんですけどね。

【部会長】 ほかにご意見、質問等ございましたら、発言ください。

取りまとめていただいた「委員会の意見」、年度評価シートの6ページ、最下段、2項目めのところに「地産地消への関心が高まっている」、これは何か根拠はあるんですか。地産地消というのは、どこからどこまでをもって地産地消というのか。

【農政課長】 先ほどのようなご意見と同様と考えますと、非常に曖昧な表現となります。

【部会長】 地産地消とは言われていますけど、ここで高まったという根拠もないし、地産地消と言えば、下田で取れたものを下田で食べなきゃいけないというわけでもないと思うんです。千葉県単位で考える人もいるだろうし。

【農政課長】 これもコロナ禍の中で内食なり、外食自粛という中で、直売施設の利用が非常に高まっている傾向がありますので記載しました。

【部会長】 というと、新鮮野菜とか、そういう意味があるはずですね。地産地消と言葉の意味が違うような気がするんですけども。

【農政課長】 そこを何か変えて、また提案し直します。

【部会長】 ほかにご意見ないようであれば、議題（4）に移りたいと思いますが、よろしいですか。

では、引き続き、「議題（4）千葉市ふるさと農園の年度評価に関する事項について」に入ります。事務局より簡略にご説明願います。

【農政センター所長】 農政センター所長の高須と申します。座って説明させていただきます。

それでは、ふるさと農園について説明をします。令和元年度 指定評価管理者年度評価シートをお願いいたします。

「1 公の施設の基本情報」ですが、施設名称は千葉市ふるさと農園です。条例上の設置目的は、農林業に対する市民の理解を深めるとともに、いこいの場を提供し、農林業の振興に寄与することを目的としております。ビジョンについては、市民が土や自然に親しみ実習や体験などを通じ、農林業に対する理解を深めていくこと。当該施設にお

ける農と触れ合う機会を通じて、農林業に対する理解を深めていくことです。ミッションについては、農業に接する機会の少ない市民に、農を学ぶ機会を提供すること、農と触れ合うコト体験を提供することです。成果指標は、諸室利用者数と利用者満足度で、数値目標は、諸室利用者数が年間1万3千人以上、利用者満足度は90%以上です。

「2 指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は株式会社塚原緑地研究所です。指定期間は平成31年4月1日から令和6年3月31日までの5年間です。選定方法は公募です。管理運営費の財源は、指定管理料及び諸室の利用料金収入です。

「3 管理運営の成果・実績」ですが、令和元年度の諸室利用者数は1万3,018人、達成率は100.1%。利用者満足度は98.4%で、達成率は109.3%になります。

2ページをお願いします。

「4の収支状況」は、令和元年度の実績額でご説明をします。なお、当該指定管理者は令和元年度が指定管理期間の初年度であり、平成30年度の指定管理者とは実施主体が異なっております。

「(1) 必須業務収支状況」ですが、「ア 収入」は指定管理料3,064万円、利用料金収入71万2千円、その他収入120万1千円、合計3,255万3千円です。「イ 支出」ですが、人件費が1,836万6千円、事務費、管理費810万6千円、委託費741万9千円。その他事業費29万7千円、間接費268万8千円、合計3,687万6千円です。

実績額と計画額の差異の要因は、人件費の増は初年度開設準備費によるものです。計画額と提案額の差異の要因は、人件費の増は清掃業務の一部直営化、事務費・管理費の減は教室運営費の見直しによるもの。委託費の増は、植栽管理を委託により実施したことによるものです。間接費の減は、配賦基準の変更によるものです。下の間接費の配賦基準、算定根拠は合計収入額の8%、本社経費によるものです。

3ページをお願いいたします。

「(2) 自主事業収支状況」ですが、「ア 収入」は自主事業収入356万7千円となります。「イ 支出」ですが、人件費は414万1千円、事務費4万円、使用料62万4千円、事業費555万円で、合計1,035万6千円です。

「(3) 収支状況」ですが、必須業務と自主事業を合わせた総収入は3,612万円、総支出は4,723万2千円。収支は1,111万2千円の赤字となっています。

「5 管理運営状況の評価」の(1)から(3)ですが、これにつきましては後ほど説明をさせていただきます。

続きまして、4ページをお願いします。

「(4) 経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見を踏まえた対応」ですが、こちらは初年度であるため、該当はありません。

5ページをお願いいたします。

「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」につきましては記載のとおりで、アンケート調査で373人の回答をいただき、利用者より概ね好評を頂いている状況です。

次に、先ほど飛ばしました3ページから4ページ、「5 管理運営状況の評価」の(1)

から（３）についてご説明します。初めに「５（１）管理運営による成果・実績」ですが、諸室利用者数については１万３千人の目標に対し１万３，０１８人の利用があり、達成率１００．１％でしたので、市の評価はＣとしました。利用者満足度については、満足度９０％の目標に対し満足度９８．４％であり、達成率１０９．３％でしたので、市の評価はＢとしました。

次に、「５（２）市の指定管理費縮減への寄与」については、指定管理料は新型コロナウイルス感染症の影響による補填分の３万９，８８６円を除けば、提案額と同額となったため、評価はＣとしました。

「５（３）管理運営の履行状況」ですが、年に２回モニタリングを行い、その結果を基に各評価項目において、市の評価を行っております。

こちらの細かい評価結果については、対照一覧表のほうに示しておりますが、モニタリング確認結果を点数化し、その点数の合計において平均値がゼロのものはＣとして評価しているものです。ふるさと農園の評価は６つの項目をＣとしまして、概ね管理の基準、事業計画等に定めた水準どおりに管理が行われていると評価しました。

この中で、利用者サービスの充実については、平均値が０．５以上のため、Ｂ評価としています。Ｂ評価とした理由につきましては、対照一覧表の５ページをご覧ください。「利用者への支援」において、利用者への意見に対して迅速に対応していることから◎の評価し、この評価項目における平均値が０．５となるためです。

年度評価シート、６ページにお戻りください。「７ 総括」についてご説明をします。

「（１）指定管理者による自己評価」ですが、総括評価をＣとした上で、所見としましては、「成果指標は、諸室利用者数１万３，０１８人（市目標の１００％）、利用者満足度９８％（市目標の１０９％）を達成した。体験教室は６９回実施し、市基準値６０回に対して１１５％を達成した。全体利用者数は１０万１，１６１人と前年対比１万１，７３１人の増で１１３％を達成した。栽培指導付き市民農園、バーベキュー場等の自主事業の実施により、ふるさと農園の魅力向上と利用促進に努めた。バーベキュー場営業が低迷したため、アンケートの結果を精査し運営方針の再構築を図ると共に、ＰＲに力を入れていきたい。」としております。

次に、「（２）市による評価」ですが、対照一覧表の８ページの右下集計表に先ほど説明申し上げました、市の各項目の評価をまとめたものがございしますが、こちらが一部、大変申し訳ないんですが、誤りがありまして修正をお願いいたします。右下の集計表の集計のＢの個数は１になっていますが、こちらは２に訂正をお願いいたします。割合は２０％になります。Ｃは、個数は８でそのままですが、割合が８０％になります。合計は９と書いてありますが、こちらは１０に訂正をお願いします。

今の数によりまして、「市の総括評価の目安」は、「市の評価項目の２０％以上がＢで、かつ市の評価項目にＤ、Ｅがない。」ということで評価はＢとなります。市による評価については、Ｃと記載してあるものをＢに訂正をお願いします。

それでは、「市による評価」の所見の欄ですが、「概ね事業計画通り実施されている。自主事業、バーベキューの利用料金収入については、大幅に計画を下回っている。利用者満足度については、目標満足度９０％に対して９８％と大幅に上回る成果を出した。

以上を踏まえ、良好な管理運営が行われていると判断できるが、自主事業の収入等について、提案書の内容を下回っているものがあることから、今後、改善に努められたい。」

年度評価シートの6ページにお戻りください。

こちらの総括の一番下の段、「(3) 経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見」の案ですが、事務局案を申し上げます。「概ね事業計画どおりの事業運営が行われている。高い利用者満足度を得ているが、収支について改善を図るべき状況であることから、事業の効率化を図るとともに施設の魅力を高め、来場者数を増やすなどの工夫を講じられたい。」としました。

最後に、財務諸表の表紙をめくっていただいて、裏面の貸借対照表における開発費について、報告をさせていただきます。平成30年9月に行われました指定管理者予定候補者の選定の際に、委員の方から、法人税の税法上の償却期間は3年で、税法に基づいた償却が行われているか、株式会社塚原緑地研究所の見解とその対応はどのようなものかとのご指摘を受けました。これにつきましては、指定管理者から、「開発費の法定償却期間については、3年ではなく5年と定められていますが、会社法上、償却期間を定められておらず、税務上、必ずしも5年で償却しなければならないということではなく、任意償却を認めている」との回答がありました。

以上でふるさと農園の説明は終わります。よろしくお願いいたします。

【部会長】 今の説明に関して質問、ご意見等ございましたら、ご発言ください。

最初に、貸借対照表の開発費。これはどういうことですか。

【副部会長】 今、最後に言われた5年で償却しなくていいと、任意であるというのは、どこかに書いてあるんですか。

【農政センター所長】 今、口頭で申し上げただけです。

【副部会長】 財務諸表の最後のページの次に、平成30年10月12日に塚原緑地研究所から千葉市長に対して、こういう文面をいただいた。ここに開発費償却不足の理由として、「利益の範囲内で開発費償却を止めた結果、償却不足になりました。」。今後の処理方針として、「今後の収益状況に関わらず、33期、34期において積み残してきた開発費を償却します。」という文面ですが、これはご存知ですよ。

【農政センター所長】 はい。

【副部会長】 この回答は間違いであったと言われたんですよ。

【農政センター所長】 こちらの千葉市長宛ての回答の中では、5年以内に償却すること。また、今後の処理方針として、33期と34期において積み残してきた開発費を償却しますということで言っているんですが、実際のところ、されていないという状況なので、今後も引き続き、塚原緑地研究所のほうには、速やかに開発費の償却を行うようにという指導を継続して行っていきたいとは考えております。

【部会長】 だから、35期が出てこなきゃ分からないんでしょう、この問題は。今、これは何期ですか。

【農政センター所長】 現在、34期で100万の償却になっております。

【副部会長】 34期ですね。今、所長は、任意償却だから償却しないと、償却は任意であると聞いたとおっしゃられたんですよ。

【農政センター所長】 はい。

【副部会長】 決算報告書の５ページに個別注記表がありますよね。個別注記表の「１重要な会計方針」の（３）②、繰延資産の償却方法、開発費、「法人税法の規定により償却します」と書いてありますよね。法人税法は５年償却になっていますよね。

【農政センター所長】 はい。

【部会長】 １つ１つ、整理しますよ。塚原緑地研究所の『依頼』に対して下記のとおり回答します」と、この平成３０年１０月１０日付けの依頼は何なんですか。依頼はこの委員会で指摘のあった、償却方法、法人税法を守られていないんじゃないかというのを言ったんですよね。それと、この依頼とは何か関連性があるんですか。ないんですか。

【農政センター所長】 こちらの委員会でご発言があった内容を受けて、塚原緑地研究所のほうに、こちらから文書での回答を求めたものです。

【部会長】 それが平成３０年だったということ。この回答書に３３期、３４期というのは、将来のことを言っているわけで、３２期は償却不足になりました。３３期、３４期、すなわち平成３０年、令和元年において償却しますという回答だけれども、３４期というのは令和元年でしょう。この文書と、この委員会で指摘して回答を得たのと全然つながらないような気がして。

この前も、他の部会でやったんだけど、３４期の決算書では、改められているかどうか分からないから、３５期が出るのを待ちましょうということになっていたと思うんですけど、今、説明を受けたのだと、訂正する必要はないんだという説明を受けているということになるんですか。訂正する必要はないんだという説明と、末尾の回答と整合性はあるんですか。ないんですか。

平成３０年１０月１０日付けの依頼は、開発費は任意償却であるが、少なくとも５年以内に償却していくようにという税法の趣旨からして、３０期、３１期、３２期の開発費残高と比べて、３２期の開発費償却２００万は償却不足と思われることから、このことについての考え方、今後の処理方針などに関する貴社の見解という問合せですね。

【副部会長】 そうですね。

【部会長】 それに対しての回答は、償却不足になりました、申し訳ありません。３３期、３４期に積み残した分を償却しますというのが結論なんでしょう。それと今の答えというのは、何ら任意であって、償却しなかったのはおかしくないんだということですか。

【農政センター所長】 こちらの回答が守られていないということになりますので、継続して指導を続けていきたいということで考えています。

【部会長】 分かりました。ほかに質問、意見等ございますか。

【副部会長】 年度評価シートの２ページです。実績額と計画額の人件費が４３１万７千円増えました。これは初年度開発準備費用等の人件費がかかりました。そして、次の３ページ、自主事業の支出、実績額は人件費が４１４万１千円と、これはかなり予定より大きくなっているとあるんですが、事業費として５５５万円と、内容はよく分からないですけど、これに対して市としてはどう理解されるんでしょうか。ご説明いただき

たいんですけれども。

【農政センター所長】 自主事業のほうの支出の５５５万円の内訳なんですが、３５０万円程度がバーベキューの施設の初期設備投資の費用だということで伺っています。

【副部長】 これは予算等には載っていなかったのか、ここだとよく読めないんですけれども、こういう、言わば初年度の開発準備費用が大きくあって、最初の提案の計画に書かれていなかったということですよ。

【農政センター所長】 そうですね。提案や計画の中で見込んでいた以上のものが、実際はかかってしまったということだと思います。

【副部長】 そして、これは開発準備費だから、両方とも次年度からは出てこない、そういうヒアリングをされたんでしょうか。

【農政センター所長】 はい。

【副部長】 大きく損失が出た、収支の赤字が１，１００万円出ているということは、ほぼそのものに該当するんですよ。人件費の増加分約４００万円と事業費約５５０万円が主なもので、そういうものが赤字の原因であるということ。

【農政センター所長】 金額で大きいのはバーベキューです。客単価が、２，０００円を見込んでいた客単価が１，３００円にしかならなかったものと、あと、バーベキューの客数を、７，５００人を見込んでいたものが、実績として１，５２１人しかバーベキューの客が来なかったこと。それは何でかということ、天候が非常に不順であったことと、初年度であることで周知、ＰＲが有効に機能しなかったという２点をヒアリングの中では聞いております。

【副部長】 そうですか。今、お聞きしたいのは、自主事業の予算というのはどこかに出ていますよね。５５５万円に相当するものが出ていますか。

【農業経営支援課長補佐】 自主事業の支出の内訳については、事業報告書の１７ページ、そこに計画額と実績額というものがあります。そこで人件費の実績として４１４万１，１３４円、事業費の合計として下に５５５万円と、ここに記されています。

【副部長】 計画額は９７０万円ということ。

【農業経営支援課長補佐】 計画額が９７０万円あったものが、実績額が５５５万円でした。これだけの差異がある要因としては、今、所長が申し上げましたとおり、バーベキュー等々の当初の見込みよりなかなか客数が入らない、客単価が上がらないということで、マイナスで約４１５万円の差異が出ているということです。

【副部長】 結局は売上が大幅に減少したという予算になっているわけですか。

【農業経営支援課長補佐】 はい。

【部長】 ほかにご意見等ございましたら、発言ください。

【委員】 質問でよろしいですか。自主事業の見直し自体は、検討は現在やられているんですか。自主事業のバーベキューとか、過大投資かもしれないですし、目標はきちんと立てられている、あるいは、計画はきちんとされていると思うんです。実際にされていて、この数字が出てきていると思うんですが、それを踏まえて現状がこういうことだと、見直しの検討は、いかがですか。今年もこういう感じですから。

【農政センター所長】 新型コロナウイルス感染症の影響がかなり出ていますので、

今年度も非常に苦しいということは言っていますが、広報、PR、周辺の住宅へのポスティング等を行うとか、あと、食材につきましても、その場所で取れた野菜を利用するという事で改善を進めていきたいということは言っています。

【部会長】 総合評価がCからBに変わった理由というのが、Bが1つ増えたからだというんだけど、どのBが1つ増えているんですか。利用者サービスの充実、それはBだと分かるんだけど。

【農政センター所長】 年度評価シートの3ページの「管理運営状況の評価」の中の利用者満足度90%の達成が、Bで1つあります。それと、もう1つは、4ページの「施設の効用発揮」の中の「利用者サービスの充実」の「利用者への支援」というところがBになっておりまして、2つのBによって総括評価がBとなるものです。

【部会長】 分かりました。

ほかに質問、意見等ございましたら、ご発言ください。

【委員】 この農園だけに限らないんですが、バーベキューが非常に困難であったと。これだけ達成率の実績が上げられなかったというのがあれば、こういう時代ですから、もう少し画像を入れたり、こういうふうにしても達成できなかったというのが、写真でもいいんですけども、何か入れないと全く理解できなくなり、なるほど、それではお客さん入らない、という理解が得られなくなります。全員が去年の現地状況を見ているわけではないので、そういう工夫をしないと、なかなか質疑もうまくかみ合わない質問と答えになっていく可能性がありますので、ぜひ工夫していただきたいと思います。でないと、ただバランスシートとかを見ても分からないところはいっぱい出てくるんです。お客さんが来ないという状況については、施設がこんなに、あまりよい状況じゃないんだとか、我々は見えていますから知っているので分かるんですけども、なかなか共有できないのです。ですから、そういう工夫をされたほうがいいのではないかと提案します。

【農政センター所長】 委員からいただきましたご意見の方は、今後、実施していきたいと思います。

【農政部長】 おっしゃるとおりで、私も今回、初めて携わったんですけど、分かりづらい部分が多いので、もっと絵とか、例えば、ポンチ絵とかというのを使って、もう少し分かりやすくできるように工夫したいと思います。

【委員】 数字は決定的なので、何でこんなのかなんたという話になるんですけど、意外と理由を言えば解決することもありますので。

【農政部長】 こういう取組みの課題が分かりづらいので、その辺は工夫していきたいと思います。ありがとうございます。

【部会長】 ほかにご発言がなければ、意見というか、難しいと思いますけれども、2つの施設についての意見を事務局で取りまとめていただきまして、その後、再開ということでやりたいんですけども。

【農政課長補佐】 では、今から6分、後ろの時計で12時40分までお時間をいただきますようお願いいたします。ご休憩のほど、お願いします。

(休 憩)

【部会長】 再開いたしましょう。よろしくお願いします。

【農政課長補佐】 それでは、下田農業ふれあい館の委員会からの意見案で、先ほどのご意見を踏まえまして、読み上げます。2つ目です。

「台風・大雨災害、新型コロナウイルス感染症の影響により、売上が低下するなど、厳しい局面であったが、昨年度と比較し収支が改善した。引き続き、自主事業の収支を改善させるため、コロナ禍での地元直売所における農産物の購入傾向が高まっていることを好機と捉え、利用者のニーズを的確に捉えた、魅力ある直売所作りやレストランの在り方の検討を進め、自主事業の赤字収支の解消、収益性の改善に資する工夫に努められたい。」と修正させていただいております。

【部会長】 ただいまの説明に対しまして、何かご意見等がありましたら、ご発言をお願いします。

【委員】 購入傾向というのは、何か裏づけがあったんですか。

【農政課】 補足させていただきます。直近、今年2月から5月の下田農業ふれあい館の売上、直売所に限ってですが、前年対比110%ぐらいで全て超えておりますので、コロナ禍においても2月から5月の売上というのは上回っているという傾向と、あと、近隣の直売所においても、売上が非常に高くなっているという数字が出ております。

【委員】 それなら購入傾向どころか、もう実際にデータがあれば、消費が高まっているときちゃんと書いたほうがいいのではないですか。実際の評価ですから、曖昧な評価ではなくて。

【農政課長】 「傾向」を削除するということではよろしいでしょうか。

【委員】 「傾向」とかそういうものは、本当は評価にふさわしくないと私は思うんです。そういう曖昧な表現は。

【農政部長】 「購入が伸びている」ですね。

【部会長】 ほかにご意見はございますでしょうか。ないようでしたら、下田農業ふれあい館における指定管理者による施設の管理運営に関し、当部会における意見としてはこのとおりということに決定してよろしいでしょうか。その旨、決定いたします。

次に、ふるさと農園について、お願いいたします。

【農政課長補佐】 ふるさと農園ですが、委員会の意見案、修正なしということではいかがでしょうか。

【部会長】 修正なしということで説明を受けましたが、ご意見ございましたら、発言願います。

ないようでしたら、千葉市ふるさと農園における指定管理者年度評価に関する当部会における意見としては、このとおり決定してよろしいでしょうか。それでは、その旨、決定いたします。

意見の取りまとめとしては、以上となりました。

なお、本日、部会として決定いたしました意見の文言の整文等については、私にご一任願います。

以上をもちまして、令和元年度千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会第1回農政部会を閉会します。

それでは、事務局に進行をお返しいたします。

【農政課長補佐】 ありがとうございます。委員の皆様、長時間、お疲れさまでございました。

事務連絡を申し上げます。まず、本日の議事録を作成する関係でございますが、後日、皆様に内容のご確認をお願いする予定です。案を作成し次第、事務局より連絡しますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の会議を終了します。長時間にわたり、ありがとうございました。